

令和6年度 重点研究の総合評価(中間・事後)

■重点研究 中間評価(継続課題)

課題名	担当機関 (研究期間) ○印が主管場	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	意見	評価
衛星画像による大規模草地の植生判別法の開発							
○酪農試験場、 酪農試験場天北支場 (R5-R7)	b	b	b	B	UAV による教師データの判別精度に未だ改善の余地があり、予測精度の向上に向けて必要な対応を図るとともに、対象草地の経年変化を念頭に時系列情報に対応した適切な研究に努めること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
深刻化する養殖ホタテガイ大量死発生機序の総合理解							
○函館水産試験場、 中央水産試験場、 栽培水産試験場 (R5-R7)	b	b	b	B	各種ストレスの相互作用を含む影響把握に継続して努め、ストレス応答の機序の総合理解ならびにストレス年変動下での管理条件の最適化について検討し、生産者にとって有効なガイドラインを作成すること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
海藻類の陸上養殖技術の開発と生産モデルの構築							
○稚内水産試験場、 網走水産試験場 (R5-R7)	b	b	b	B	エネルギーコストの上昇などの境界条件の変化に対応し、養殖技術開発と生産モデル構築に対する具体的な目標と到達点を明確にした上で、道産アオサ類での有機種苗生産の可能性検討や、妥当な生産モデルの事業化検討を進めること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
グイマツ雑種 F₁ の充実種子の増産に向けた施肥技術の開発							
○林業試験場 (R5-R7)	b	b	a	A	計画通りの進行ができており、研究目標の達成やその活用が期待できる。 処理地による結果の違いを踏まえた活用策、目標(発芽率 60%超)到達のための必要条件や検証方法について検討し、実用性の高い成果につなげるよう努めること。	A	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。

単木計測 AI 技術と CLAS-LiDAR 計測技術による森林資源量推定システムの実用化						
○林業試験場、 工業試験場、 ものづくり支援センタ ー (R5-R7)	b	b	b	B	目標達成に向けて計画に沿って進捗している。 成果活用が見込まれるように、実測値のデータ取得等にかかる研究実施計画を再検討し、高精度 DEM 計測についての妥当性検証、および AI 高度化と樹種拡張手法の精度向上を図ること。	B 評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
AI を用いた RC 造建築物外壁調査・診断等の支援技術の開発						
○北方建築総合研究所 (R5-R7)	b	b	b	B	想定される多様な外壁仕様と劣化事象に対応できるよう教師データの量的・質的向上を図るとともに、本支援技術の労力削減・精度向上の効果を明らかにし、本技術の独自性、優位性を明確にすること。	B 評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
既存住宅流通促進に向けた戸建て空き家・空き家予備軍の実態把握ツールの開発						
○北方建築総合研究所 (R5-R7)	b	b	c	B	開発を目指すツールが市町村の政策決定に広く活用されるように、流通ポテンシャルの多様な側面を考慮してさらなるデータの取得に努め、その妥当性・実用性を説明できるようにすること。	B 個人情報への扱いに注意し、評価委員会の意見を踏まえ、住民や政策決定者に受け入れられる成果となるよう課題に取り組むこと。

■重点研究 事後評価(R5 年度終了課題)

課題名	担当機関 (研究期間) ○印が主管場	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評 価	意 見	評 価
北海道加工にんじんの安定供給を目指した栽培・出荷体系の確立							
○花・野菜技術センター、 十勝農業試験場 (R2-R5)	b	b	b	B	本研究の成果をもとに加工用原料の安定供給に向けて貯蔵方法などの改良に引き続き努めること。 また、輸入原料に対する優位性や道産原料へのニーズを明確にして、成果の普及に努めること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、成果の普及を進めること。
北海道の気候に適した牛舎の機械換気システムの開発							
○酪農試験場、 北方建築総合研究所 (R3-R5)	b	b	c	B	機械換気設備の設計シートが実際に活用されるよう、家畜側の評価、牛舎内環境の把握手法について継続して検討し、設計シートの改良に努めること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、普及に向けた技術改良を進めること。
気象データを活用したバレイシヨ疫病の初発前薬剤散布指示システムの開発							
○道南農業試験場 (R3-R5)	a	a	b	A	慣行法よりも大きく改善した薬剤散布タイミングを見出し、優れた散布指示システムの開発に至った。 今後の実証試験を可能な限り広域・多地点で実施するとともに、結果の不確実性も考慮し、システムへの反映ならびにシステムの普及を図ること。	A	評価委員会の意見を踏まえ、成果の普及を進めること。
貝類の循環濾過蓄養システムの開発							
○網走水産試験場、 中央水産試験場、 林産試験場、 釧路水産試験場 (R3-R5)	b	a	a	A	貝類の異臭除去に有効な循環濾過システムが開発できた。 蓄養時間や水槽内の物理的配置など、システムのさらなる改良を図ること。	A	評価委員会の意見を踏まえ、成果の普及を進めること。
水資源開発・管理のための支援システム「水資源 Navi(地域別)」の開発							
○エネルギー・環境・地質研究所、 北方建築総合研究所 林業試験場 (R2-R5)	b	b	b	B	水資源を見える化するシステムの活用に向けて、既存の水資源情報に乏しい自治体への対応や、本システムの提供先である自治体が情報更新・維持を担うことのできる仕組みについて検討すること。	B	評価委員会の意見を踏まえ、成果の普及を進めること。

北海道産農産物を活用したロングライフチルド食品の製造技術開発						
○食品加工研究センター、 中央農業試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	ロングライフチルド食品の前処理条件の検討で得られた成果を活かしつつ、殺菌条件検討における数値の不確実性や腐敗確率の評価について再検討し、改善を図ること。	B 評価委員会の意見を踏まえ、今後、試験を進めること。
製材からプレカットまでを行う垂直統合型・垂直連携型事業体の成立条件の解明						
○林産試験場、 林業試験場 (R3-R5)	b	a	b	B	今後、垂直統合型事業体を新規構築するための合意形成へと成果が着実に活用されるよう、採算性評価ツールにおける結果の不確実性や、成立条件について再度整理し、適切に示していくこと。	B 道内木材産業の振興につながる一つのビジネスモデルを提案した。評価委員会の意見を踏まえ、成果の普及を進めること。
IoT 金型と加工状態推定・補正技術による高品質板金加工システムの開発						
○工業試験場 (R3-R5)	b	b	b	B	IoT 化とシミュレーションによる「加工状態推定・補正技術」について、板金加工システムの改良を継続し、今後の活用可能性を十分に検討すること。	B シミュレーションを活用した加工状態推定・補正技術を開発した。評価委員会の意見を踏まえ、今後の試験を進めること。